TAKE FREE

メルディア｜一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA

47

2022 MAR.

障がい者を応援

後楽園こころのあかりクリニック

布施博が訊く

医師・吉川大輝

メルディア事務局による取材

目黒障害者就労支援センター

シンガーソングライター・水越けいこ

「M size／はじまり」

フットサルチーム

BOSCO NEXT

広報誌 MELDIA VOL.47 2022年1月25日発行（偶月1回25日発行）第47号 通巻47号
発行所／一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

広報誌 MELDIA | 2022 MAR. VOL.47 | TAKE FREE

同じ家は、つくらない。

Design Your Life
MELDIA
GROUP

三栄建築設計

〒163-0632　東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F
https://san-a.com

OFFICIAL SNS

詳しくは、三栄建築設計公式サイトまで

フットサルチーム

BOSCO NEXT

仲間とチームワークを大切にして克己錬磨で競技する東京から全国へ。世界も視野に入れるフットサルチーム

ソーシャルフットボールとは、年齢、性別、人種、貧困、家庭環境、障がいなどのあらゆる違いを超えて多様性のある社会連帯を目指したフットボール文化のことを指します。

日本では上記の理念に敬意を表して精神疾患や精神障がいのある人たちがプレーするサッカーまたはフットサルのチームをソーシャルフットボールチームと呼んでいます。

東京都大田区周辺を基点として活動するフットサルチーム「ＢＯＳＣＯ　ＮＥＸＴ（以下、ボスコネクスト）」を訪ねて、練習風景を見学しつつ、お話もお聞きしました。

デイケア卒業後の交流の場所 技を磨きチームワークを学ぶ

鷲坂　まずは、「ボスコネクスト」を結成するに至った経緯をお聞かせください。

人見　私たちが利用していた私立大学病院のメンタルヘルスセンターで、デイケアの一環としてフットサルをやっていました。デイケア自体は年限が2年と決められていたので、デイケアの終了後にも皆で集まって交流ができたら良いのにという意見を発端として、フットサルチームを結成しようということになりました。

鷲坂　そうでしたか。チーム名の「ボスコネクスト」とは、どのような由来から命名したのでしょうか？

人見　デイケアを受ける期間が終了したあとも、お互いに皆が繋がりを持てる場所となれるように、という意味を込めて「ボスコネクスト」と命名しました。

小竹　知り合ったあとに、繋がりが持てる場所を作るっていうのは素敵ですね。

鷲坂　元々、皆さん仲が良かったんですか？

阿部　はい、そうです。今はコロナ禍の影響もあって、なかなか機会を持てませんが、以前はチームの皆で旅行に行ったり、飲み会をしたり、集まって何かをすることが多かったですし、それが凄く楽しかったですね。

鷲坂　フットサルチームのメンバーでもあり仲の良い友だち同士という感覚もある訳ですね。

小竹　皆さんは、どれくらいの頻度で集まって練習をしているんですか？

人見　通常、基本的には週に1回というペースで練習をしています。

阿部　メンバーは、学生だったり、社会人だったりしますが、週に1回の練習にきちんと参加するということで、生活のリズムを作ろうという意味合いもあります。

小竹　定期的な予定を入れておくと、生活のリズムを必然的に整えざる得ないですもんね。

阿部　そう思います。

フットサルチーム BOSCO NEXT
https://bosconext.jimdofree.com/

BOSCO NEXT／まとめ役補佐
人見さん
ひとみ

BOSCO NEXT／まとめ役
阿部さん
あべ

チームワークの強さを武器にいつかは大きな試合に出場を

鷺坂　もしも現在、「ボスコネクスト」の課題や問題点などがあったら教えてください。

阿部　現在、チームのメンバーが減ってきているので、もっとメンバーを増やしていきたいと思っています。

鷺坂　メンバーが増えると、プレーの幅も広がるし、チームの総合力も上がりますよね。

阿部　そうですね。人数が増えれば、より楽しくプレーが出来るのかなと期待しています。

小竹　どのようにしてメンバーに応募すれば良いんですか？

阿部　私たちに声を掛けていただければと思います。ページから連絡していただけるか、ホームページから連絡していただければと思います。

小竹　ＭＥＬＤＩＡの読者が応募をしたら、チームに入れるかもしれないわけですね？

人見　勿論です。まずは体験からスタートできるので、まずは私たちにお問合せください。

鷺坂　最後になりましたが、この先の展望や展開などがあれば、お聞かせください。

人見　いつかはソーシャルフットボールの大きな試合に出場したいですね。そこで、仲間を大切にしながら、チームワークの強さを武器に勝ち上がっていきたいです。

阿部　大会で勝つために何かを犠牲にするのではなく、仲良くプレーをした結果として勝つことが出来たら良いなと思っています。

「誰も傷付けない」というチームの方針には改めて感心をしました。サッカーもフットサルも「楽しいだけでは勝てない」と考える人たちが多いなか、敢えて「楽しさ」に重心を置いて運営していることにメンバーの皆さんが持つ信念の強さを感じることができました。
鷺坂浩章

自身が発する言葉に留意をすること、お互いを思いやること、仲間を尊重すること、これらは決して特別なことではありませんが、時として見落としがちな行為でもあると思います。この取材で得た気持ちを胸に刻み、自分の言動や行動を改めて見直してみようと思いました。
小竹めい

掛ける言葉にもお互いが留意仲間が相互に尊重をする関係

鷺坂　フットサルをプレーする時に心掛けていることや気を付けていることはありますか？

阿部　チームの方針としては、プレー中に、きつい言い方や強い口調で指示を出すことを禁止にしています。

鷺坂　ゲームが白熱していたり、動きながらの指示だったりすると、時として口調が荒くなりがちではありますよね。

阿部　はい。プレー中などは特に、そういう傾向があると思います。例えば、仲間と動きが被ってしまった時に、「邪魔っ！」とか言われると軽く傷付きませんか？

小竹　そうですね。私もサッカーの経験があるんですけれど、相手に悪意があるわけではないと分かっていても、少し気にしてしまいます。

阿部　言い方を「動きが被ってしまったから次からは気を付けよう」と変えるだけで誰も傷付かないし、内容はきちんと伝わりますよね。

鷺坂　そう思います。

阿部　どんな場面であっても、自身が発する言葉には気を付けるように皆が心掛けています。

小竹　すごく良いと思います。

人見　言葉遣いに気を付けるのは大前提としていますが、例えば仲間が良いプレーをした時には「良かったよ」と声を掛けて、お互いを褒めるという行為を大切にしています。

小竹　褒め合うって良いですね。プレーに対するモチベーションも上がるし、その場の雰囲気も確実に良くなると思います。

鷺坂　小竹さんはサッカー経験者だったとのことなんですが、サッカーをプレーするに当たって、注意していたこと、心掛けていたことって何でしたか？

小竹　サッカーは個人競技ではなくて、チームで成り立っている競技ですよね。だから、自分本位のプレーにならないように気を付けていましたし、そう指導もされていました。

人見　サッカーにしても、仕事にしても「チームワーク」って、すごく大切ですよね。

タレント／it's sunny
小竹めい
おだけ めい

一般財団法人メルディア／事務局
鷺坂浩章
さぎさか ひろあき

WE LOVE FUTSAL
BOSCO NEXT

※編注／記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。

新型コロナウイルス感染症に留意し、衛生面には最大限の配慮をしたうえで人的距離を確保して取材を行いました。
素材写真の撮影時以外は全員がマスクを着用して取材を行いました。（編集部）